

事業報告書

事業名: なかよろずアップ企画	誰もが暮らしやすい地域をめざして多文化共生のまちを考える ～私たちにできること～
報告日: 令和5年1月27日(金)	
開催日時: 令和5年1月22日(日) 14時00分～16時00分	参加費: 無料
対象者: 市民 (広報よこはま1月号掲載)	参加者: 17名
開催場所: なか区民活動センター 研修室 I・II	
講師: 日本語支援拠点施設「ひまわり」 日本語支援アドバイザー(横浜吉田中学校主幹教諭) 白濱 小恵子 先生	

前半 講義

白濱先生やボランティアに携わる方々の日々や、これまでの外国につながる子ども達との日常をお話しくださり。事例のご紹介もわかりやすく説明くださいました。

事例の中には、割り算を教えても上手く理解してくれない子ども。何故かと言うと、割り算の式は、世界共通ではなく、国によって式の違いがあった。

円周率は3.14と教えても3.1と理解する子ども。子どもと対話を重ねるうちに「円周率は3.1よ」と4を言葉の末尾の「よ」と捉えていたことがわかった。

国や習慣の違いから誤解を生むことはある。お互いが歩み寄る姿勢は、学校だから先生だから、ではなく、子どもが住んでいる地域の方々の力が何よりも必要と訴えていました。

子どものピュアな心を支え育むのは、地域住民でもあるとお話くださいました。

後半 交流会

4つのグループに分かれて交流会と「私たちができること」について話し合いを行いました。

すでに支援など行っている方も多く参加しており、経験などの話をされ、これから始めたいという方も参考になったようです。

何ができるか?と模索しての話し合いでは、外国につながる子ども達の学習支援だけではなく、その親たちの支援が必要で、地域に馴染み暮らしてもらいたいと話しました。



白濱先生



▲講演会の様子

参加者の感想

- 自分の常識やルールが相互理解を妨げる一番のハードルである。
- 白濱先生のこれまでの体験をわかりやすく、外国につながる子ども達の現状、課題を知った。

- 横浜市の外国につながる子どもに対して、手厚いサポートをされていることがわかりました。



まとめ

外国につながる子ども達は、言葉の壁から始まり、勉強の壁、人との壁とたくさんの壁を乗り越えなくてはならず、幼い子どもや思春期を迎える子どもなど、年齢に応じて対応し、日々奮闘される先生方の努力は、素晴らしいものでした。

子どもは、学校だけが居場所ではなく、「地域にいてもいいんだ!」と思う安心感がなくて、地域住民である私たち一人ひとりの意識を持って育て育まなければならないと考えさせられた。

今回の講演会は、興味を持って「知る」と理解するという「学び」ができた内容でした。